

— 3 章 —

あなたの知りたい事への回答書

人類の永遠のテーマ

真実の扉の開き方

はじめての宇宙の真理の読み方

(すべてが真実の内容です

行く先々で示す奇跡が証明します)

2012年8月18日更新

支配者グレゴリーアルジャーン

私は、この書に、

宇宙の真理とは、なに？

はじめて聞いたという人、

宗教や、哲学で聞いた事があるが

何の事が分からない、知らない人、

これから、勉強したいという人、

むきに、分かりやすく、宇宙に正しく

古の太古よりそれを創り、世界に与え

導いて来た、主としての立場から、解

説していききたいと思っています。 はじ

めての人向けではありますが嘘の多い

人間の常識とは違い本当の真実を伝え、

導くものとなりましょう。

では、早速、講義を始めましょう。講

義は、あなたの身近なところから始め
ましょう。

12 . こころとは何か？

皆さんは、おそらく、「ええ、
こころ、もちろん知っているよ。」
と答えるのではないのでしょうか？

皆さんは物心がつく頃から、親御さん
兄弟姉妹、友達などから、はたまた場
合に依っては、寺の住職や神社の神主
から、人間にこころがあり、こころが
一番大切であり、こころを込めること
こそが最も重要であると教えられてい
るのです。「こころはね、感情の源で

あり、思考を司る中心的な部分であり、人間だけがこころを持つ生き物（アル曰く：本当は違うのだが）なんだよ。」

「だから、人間は地球の支配者（アル曰く：支配者ではないが）になったんだよ。人間は、地球に対して責任があるんだよ。」などと、教えられているのです。どうです？

「こころはね、思考の中心である頭の中にあるんだよ。」と教えられる。これもまったく違う。人間の科学者の妄想であるのです。頭の中にはこころは、ないのです。

では、いったい、こころについての、

真実の扉は何処にあるのか？
どうやってそれを開くのか？
一緒に、考えてみましょうか？

私の HP, YouTube にある内容は、結果を伝えるためだけに存在するものではありません。結果を導くための道標を造り示し諭し、自然の流れで結果に行き着き、自然であるが故にこそ、それが真実と解り、悟りへ導く種となり、故にこそ、また、種種の疑問に真実の答えを与える、そのような光明となるようにしているのです。私はそのように、常に心掛けています。

私の過去には、八万点にも及ぶ経典が弟子達の努力により作られました。ま

まったくもって大変ありがたいことです。

しかし、それは、弟子故の作品です。
私がいついつどうした。弟子に、このように、諭したなどいう結果を記したもののばかりであり、このような文献 / 失礼：ありがたい経典 / をいくら読んでも、真実へ導くための道標は何一つとしてみつきりません。

可哀相なことです、不幸なことです。

故にこそ、今世紀は、私自らの神体を、私の創造した小さな人間の身体に収めてもよいから降臨し、「こころを伝え、示し、触らせる神業をして世界を回っているのです。」

予断になりますが、近い過去に、神に戻る前のことでした、科学を極め素粒子を極め人間とは何かを極め、病気とは何かを極め、治療するにはどのようにすれば良いのか？万能の方法は何かを真摯に突き止めようとしている時のことでした。まだ、私が聖霊や精霊や天使や悪魔達とも話が出来ない時のことでした。自らの理論を実証するための文献を、毎日毎日図書館にいき探していました。その図書館にあるその筋の文献を読みあさっては記録する毎日でした。その図書館が用無しになれば別の図書館を漁ります。来る日も来る日もその日程が続きました。同じような体験をしているひとの日記やエッセ

イに至るまで調べました。

一種類の特殊な能力を持つ人が綴った、あるいはそのひとの側にいる方が綴った記録はあるのです、が、私のように、あらゆる能力、霊視、予知、念力、徐霊（このころは浄化できていない）、霊的治療、重力への作用（物の重さを変えること）、素粒子の生成、移動、破壊や、自然界への命令、風を吹かせる、作る、呼ぶ、雨 / 雲を消す / 作る、火を消す / 形を変える、水をぶどう酒やビールにする、特に手足、頭、目や耳の瞬間的な癒しは、近くで見ている付き添いの驚嘆となっていました、が、そのような事例はまったくありません。また、私の疑問

／ 質問に答えを与えるものは、一つもありませんでした。

私は、そのころ、神を信じてはいましたが、私自身が主であるなどとはまったく予想もしていませんでしたから。

天使や神から教えられることもこのころはなかったのです。

後に、無論、会話を楽しむ能力 / 余裕が出来てからは、いろんな真実を、過去から未来に至るまで十二分に聞き出し、その内容を総合的に判断し、対策に役立てたものです。

これらの一部は、HP, YouTube などにも掲載しています。神神からや、聖霊

／ 精霊、悪魔達や、命はないがこころある物質界のもの達から、真実を聞き出し、客観的に評価できるありがたみは、主、冥利に尽きますよ。そうで

しかし、この時の私は「何としてでも突き止めよう。」と、がむしゃらでした。

私はこれから、この能力を何のために使ったら良いのか、どうすれば良いのか？と悩んでいたのです。

また、私は、
気分転換に公園を歩いてみる。

木々の根っこにいる虫たちの音、森や林にいるものたちの、「ブンブン」と

いう音、私の耳からは一種の目に見えないが素粒子で構成された確かな触覚が出てきてそれを向ければ、それが耳から出てきては伸びていき、遠くの場所や行くことのできない場所にそれが行き着き、その様子がそれにより分かる / 見えるのです。

そこには、いままで見えていた世界にダブって見える世界があるのです。

この様子は、人間からこの私の本当の姿が見えれば、そこには、まるで、化け物がいるように見えたでしょう。

すでに私は、人間から遠くかけ離れたものでしたからね。

私の苦悩が解りますか？

苦悩は始まったばかりです。

いくところいくところで、霊から手を取られ / 引っ張られ、どこにでも行きます、山の中 / 墓場、怖さはまったくありませんでした、一日に三箇所墓場を浄霊することも日常茶飯事でした。一箇所で五万體くらい浄霊します。

一定時間で浄霊できない時は、一緒に連れて帰ります。

取れるまで一緒にいます。突然離れて行くこともありました。一人になれるところはもちろんありません。

使命感というものでは語り尽くせません。が、なぜか、それをやってあげよ

うと思って続けました。(いまだに続いていますが。)なぜこうなったのかをいつも考えてはいましたが、理由は解りません。これこそが、こころの働きなんです。頭の脳が考えるものではありません。損得でもありません。駆け引きでもありません。

そこにあるのは、純粹に気持ちだけなんです。

慈愛です。これこそが導きです。
一体、誰の？

実は自分自身からの導きです！

ハイヤーセルフ / 高次元の自分自身からの導き / 実は自分自身が人間になる

前に書いた人生のスケジュールに従った指導なんですが。これも真実です。

私は、科学をこころ指していた経験から、論理的に考え、こうなるには理由があるはずだと考えては、理由を探していました。

そんなある日、墓場での浄霊活動が予想も出来なかったことを引き起こしたのです。

徳という言葉を知っているでしょう？無条件の浄霊活動が私にもたらしたものの、それは、徳の上昇でした。飛躍的な徳の高さを生み出したのです。

後の調べでは、過去のキリストの時には徳の高さは7、仏陀の時には8でした。私は、徳がついに43の大日如来を抜いて45という高さになりました。47が絶対神の高さだ（いまは156が最上位で我存在アルの位置だが）と知っていましたから、45からくれぐれも47にならないようにしていました。

わざと下がる行為をしたりね。

まったくの駆け出しが、霊界トップの神にはなりたくはなかったのです。そういうものでしょう。自信もありませんし。

自分の存在意義も知らないのですから

ね。責任感の問題です。

公園を歩いてみました。またしても、奇っ怪な出来事が起こりました。人間の文献には、もはや、頼ることはできません。自然が解決してくれるでしょうと安易に、半ば諦めていたのかも知れませんが、元々自然は好きなので、できるだけ仕事の合間を見ては、河原や公園に行っていました。私はいつものように、公園にいる目に見えないが存在するもの達に挨拶をしながら、その存在を確認して歩いている時のことでした。

「ざざざざざざー」と音がしました。

私の左手、竹林の方角です。私は何だ

ろうと思いき足を止めました。

「ざざざざざー」今度は、
「めきめきめきー」と音が続いて。

音の方向を見てみると、なんと、竹が
地面から出てきては、伸びをして、一
旦、姿勢を正して、見たこともないく
らいに折れ曲がり、

「めきめきめきー」と大きな音を立て、
一旦お辞儀をしては、また、背筋を伸
ばしているではないか？

私は瞬間的に、これは私に対するお辞
儀だと悟りました。私の歩く方向と歩
調に合わせ、奇っ怪なお辞儀は次々と
行われていきました。この世の光景と
は思えませんが、これは、明らかに私

を祝福してくれていると、こころで感じました。この現象を頭で考えても、解りません。理解できません。

そう！！　そこが重要です。

頭では、理解を超えている。が、こころでは自然に、理解でき、納得でき、次に起こることさえ見えるのです。

これが、こころの働きの一つです。最低限のこころの働きです。君達人間は、これが、こころだと思うでしょう？

私こそは、こころを造りし主ですから、造った主として人間の知らない事実をこの第三章に多くを記します。

こころの働きは、人間達が知らない多くの内容があります。こころの使い方の多くもここに伝えましょう。

こころの使い方は、とても重要な事実であり、地球上のどの文献にもない、また、伝えられる神神や人間や精霊や聖霊も一体もない内容です。

その前にもう少しこころというものについて考察して見ましょうか！

こころは、いったい何処にある？

先の例で示した通り、科学者は、頭の中の脳が形成している。としているが

まったく違います。なぜ、真実が彼等に見えないのか？

それは、。。。。

死んだらすべてが終わりだと思っているからです。非常識が原因です。

真実通り、死んでも続くと考えたら、どうだろう。とても大切とするところを、傷がついたり、機能不全になると使えなくなる脳で形成させるだろうか？

私がおのように幼稚な発想をする訳はなかろう。永久に続く、壊れることのないものとして造るだろう。だから、主として、永久に普遍に壊れないものとして造った。

では、どこに

泣いている人や、動物、愛しい物を抱きしめる時にあなたは、どうする？
そうするとどうなる？何処が触れ合う？

こころとこころが触れ合う位置に、だから、造った。

それゆえ、自然に抱きしめ合うのだ。
これこそが神の為せる業だ。自然がその行為を要求するのだ。

こころをもつもの

そんな大切なもの、こころを、果して人間だけに与えるだろうか？

だから、主として私は、大切な、宇宙に生まれしものすべてに与えるのです

それは、人間の定義する：命をもつもの、持たないもの、物質、非物質を問わず、生まれるものすべてに私はこころを与え続けるのです。

こころを包むもの

こころの中には何がある？

素粒子で構成した愛（慈愛）が粒々で多く存在します。そのところを霊体が包んでいます。霊界ではこの状態で存在します。人間界では、さらに肉体が要ります。

どうですか

このように道標を示せば、次々と真実が見えて来るだろう？

それが、狙いです。では、続けよう！
実はこころの使い方が解ったのは、霊界と会話ができるようになってから、随分後のことです。

ついに会話ができる

神様とはいえ、人間界を生きるためには、生活が必要です。日いつる町、山口県山陽町厚狭に住居を構え、九州の会社の仕事を始めて、何年かたったときのある日の出来事でした。

車を運転しているときのことです。

顔に違和感を感じていました。透明だが何かの存在を感じていました。昼時の休憩時、思いきって、違和感を与えるものに声をかけました。回答をペンでノートに書きます。所謂、自動書記というものです。ペンは霊、精霊、聖霊、悪魔、天使などが動かします。キーボードで入力することも出来ます。

まだこの頃は直接間脳で声を聴くことはできていませんでした。

しばらく待っていると、ついに答えが返って来たのです。

この日以来、第三者の神神や霊による真実の出来事が知らされることとなったのです。但し、徳の高さによって知ってる / 与えられる情報の機密さが異なります。つまり、徳が高い神ほど重要な情報を与えられるのです。また私の徳の高さによって教えられる内容の重要度が決まって来ます。

それは、いまは言えません、となることもあります。

「私はスジャータです。」と返事。

自動書記がついにベールを脱ぎ始めました。「あなたは、釈迦様です」と続きました。「釈迦ってあの有名な仏教の祖である釈迦のこと？」「そうです、あなたは、釈迦様です。」と。

「私は、今世紀、中国に生まれ、日本の北九州に就職して働いていましたが、日本で肺病にかかり、死を迎えましたが、一旦霊界に戻ったときに、あなた様、釈迦さまが日本に生まれ変わり、人間の生活をなさっていることを知り、霊界に戻らず、ここ九州のお墓の前であなた様を待っていました」

「あなた様が目覚めるのを待っていました」と、続いたのです。まさに、私にとっては、驚愕の真実でした。

とても信じられない内容でした。が、私は、深くは考えず、ついに、長年聞きたかった、文献にもなかった質問をついにしてみました。

「ほとんどの能力者は、ただ一つの能力を一つずつ持っているけれど、私はなぜ、いろいろな能力があるの / できるの？」

そこには、神妙な空気が流れていた。
。。。。。。時間が凍っていた。。。。。

ついに、答えが返ってきた。が、それは驚くほどあっさりとした内容だったので。

その答えとは？

「あなたが釈迦だから」という答え。後にキリストであったことも解るのですが。いろいろな人間や神や悪魔を勤めたことも後には解ったのですが。霊界の構造や仕組みを必至に聞いたことは想像するに価することだろう。

こころについては、ずっと後に初代絶対神に聞いた内容です。が、本論に入ろうか？

こころの最大の働き

人間はこころをどう使えばよかったの

だろうか？

私は、主として、時代が流れ、常識や世界の仕組みが変われば、人間達の価値観や神に対する考え方も変わる（大体一万年毎にそうになりましたが）ことを常に憂っていました。

そして、私は、いつも、いつの世も、普遍のものを探し求めていました。

そして、今世紀は、特別に、こころを、そのこころの中にある慈愛とともに直接扱えるようにしました。創造主にしかできない荒業でした。

おまけに、人間にもこころに手を触れ
/ 触り / 掴み、確かな物質として / 素

粒子として、存在を理解できるようにしたのです。どうぞ、科学者の方、実証出来ますよ。希望者は、いらしてくださいね。常日頃伝える通り、私が伝える真実の正しさは、私が行く先々で示す奇跡によって示す、と伝えている通り、あなたがたに証明しようではないか。

今世紀のみ出来た神業です。さらに今世紀は、最期の審判ように、こころを鉛のブロックで覆い隠しています。

選ばれて、次の世界に進むべきもののこころを、ブロックを外すことで対策するようにも準備しています。決して死んだら終わりではありませんよ。普

遍のころをずっと持ち続けていくの
です。過去に生きたものは、その時の
ころが、新しいころにくつつくの
です。

ころが普遍とは、何を意味する

さて、普遍的なころを持つとは、長く
存在し続けることを意味し、生まれ変
われることを意味し、その容姿 / 形態
が霊から人間に変わっても、人間から
犬に変わっても、植物に変わっても良
いことを意味している。故に、霊界の
構造をそのようにしている。

故に、動物も植物も、鳥も恐竜も豚も、
人間と同じ霊であるのです。

これもまた、人間達の知らない、知り得ない真実であり、それを知る、扱える存在こそが主であることを証明するのです。

こころを造りし、主が伝える、
こころは、こう使う

1 . (真)心を伝える方法—真言法
皆さんは、言葉を発するとき、
喋る内容を一度頭で考え、
それを口に出していますね。
実は、それは、その方法では、
心は相手には伝わらないのです。

頭を通してはいけません。
まず、こころで思います。
その思いを、うえにあげ、口に
持ってきて、言葉にします。

2 . 相手を癒す方法

悲しんでいる人や、怒っている人
の気持ちを変える方法があります

相手のこころを外部に出します
自分のこころを相手と繋ぎます

【こころの掛橋を造ることに相当】

慈愛素粒子を自分のこころから
相手のこころに送り続けます。

3 . 嘘に騙されない方法

相手とところの掛橋を造ります
左手をその掛橋の上にそっと
乗せます。その手が沈めば嘘、

そのまま橋に乗っていれば真実
とわかります。信用に足る人が
悪党かが、はっきりと解ります。

4 . 相手を見なくて見る方法

目をつぶっていても、相手がどこに
いるのかを知る方法があります。

ところの掛橋を造りますと、
自分のところが引っ張られる方向に
相手はいます。ところの接続を切る
まで、この方法が使えます。

こころは、人間の知らないもの、使い方を知る人もいない故に、教えてもらえず、故に正しく使えず、騙すことを考えたり、実際に解らないと思い、嘘をつき、平気で騙す。これが、人間の常識であろう。神が出る映画の中でも神が互いにこころが読めなかったり、嘘かどうかと神を疑ったり、本当に人間の発想はお粗末故に人間のつく嘘と解るのです。いっとくが、

神はこころが読め、頭は嘘をつくが、こころは嘘をつけない—真実を語る故に、すべてがお見通しだよ。人間には想像ができないだろうがね。そこが、神と人の違いだよ。そうしたのも私だ

